

## 大腿骨近位部骨折の診断における帯状高吸収サインの有用性の研究へのご協力をお願い

今回、市立福知山市民病院は、「大腿骨近位部骨折の診断における帯状高吸収サインの有用性の研究」を実施いたします。実施にあたり市立福知山市民病院倫理委員会の審査を受け、適切な研究であると承認されています。

### 研究の目的

大腿骨近位部骨折は転倒により起こる骨折で、骨折前の運動能力や生活の質を保つためには、早期の診断と治療が必要です。CTは骨折の診断に一般的に用いられる検査ですが、その診断性能は完璧とは言えず、一部の患者さんの骨折を見逃してしまう危険性があります。本研究では「帯状高吸収サイン」と呼ばれるCT画像の新しい特徴を研究し、大腿骨近位部骨折に対するCTの診断性能を向上させることができなやかを検討します。この研究により、大腿骨近位部骨折をCTでより正確に診断することができるようになることを目指します。

### 研究の方法

#### ・対象となる方について

2017年1月1日から2025年12月31日の間に、市立福知山市民病院で大腿骨近位部骨折の診断のためにCTとMRIの両方の検査を受けた方が対象となります。

#### ・研究期間

倫理委員会承認後から2027年12月31日

#### ・情報利用開始日

2024年6月1日

#### ・方法

大腿骨近位部骨折の診断のためにCTとMRIの検査を受けられた方の診療録（カルテ）より以下の情報を取得します。取得した情報から、「帯状高吸収サイン」を用いてCTで骨折を診断できるかどうかを検討します。

#### ・研究に用いる情報について

性別、撮影時の年齢、手術記録、治療の経過、撮影された股関節CT・MR画像 等

#### ・個人情報の取り扱いについて

患者さんのCT・MR画像やカルテ情報をこの研究に使用する際は、氏名、生年月日などの患者さんを直ちに特定できる情報は削除し研究用の番号を付けて取り扱います。患者さんと研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、インターネット

に接続できないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、入室が管理されており、第三者が立ち入ることができません。

また、この研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、患者さんが特定できる情報を使用することはありません。

なお、この研究で得られた情報は研究責任者（市立福知山市民病院放射線科 坪井 恵亮）の責任の下、厳重な管理を行い、患者さんの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

#### ・情報の保存および二次利用について

カルテから抽出した情報や画像は原則としてこの研究のために使用し、結果を発表したあとは、市立福知山市民病院放射線科において坪井恵亮の下、10年間保存させていただいた後、研究用の番号等を削除し、廃棄します。

また、将来新たな研究を行う際に、今回保存した情報を利用させていただく場合があります。その際には改めてその研究計画を倫理委員会で審査し、承認を得て利用します。

### 研究組織

研究責任者：

市立福知山市民病院 放射線科 坪井 恵亮

研究担当者：

市立福知山市民病院 放射線科 蘆田 浩  
浅井 俊輔  
徳田 文太  
市立福知山市民病院 整形外科 齋藤 智起

### お問い合わせ先

患者さんのご希望があれば参加して下さった方々の個人情報の保護や、研究の独創性の確保に支障が生じない範囲内で、研究計画及び実施方法についての資料を入手又は閲覧することができますので、希望される場合はお申し出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2027年9月30日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

市立福知山市民病院 放射線科 坪井 恵亮

電話：0773-22-2101（代表） 平日（月～金）9:00-17:00